

葉

1組では、化石の発掘に取り組みました。とはいっても、化石が存在するかもしれない泥岩を砕き、化石の発見を目指します。岩石に残る層に対し、マイナスドライバーを平行に入れ金槌で繊細に叩きながら層をはがしていきます。

丁寧な作業が功を奏し、葉の化石を美しい形で取り出しました。写真は生徒が発見した化石です。



19日には不審者対応訓練を行いました。CS委員会・学校支援本部のお力をお借りして、不審

者役に中里共栄会の山岸さんをお願いしました。不審者侵入が知らされた生徒たちは机を整然と美しく並べました。不審者の侵入阻止のためには、絡まった枝葉のように築いたバリケードが効果的か。今後の課題です。美しきバリケードは、場合によっては壊れます。教職員や応援が到着するまでの時間「かせき」となってしまう、完全に抑止することはできません。しかし応援が駆けつけるために、その時間が必要なのです。山岸さんの迫力ある演技に、生徒が何人も「ほんとに怖かった」と。



有事の際は恐怖のあまり更にパニックを起こし、判断力を鈍らせます。本校教員ではなく、外部の方が不審者役を担ってくれたことで、より有事に近づいた形の訓練を行うことができました。

23日放課後、「うううっ」「痛いっ」と校庭の隅で事件性のある声が。犯人は右の写真!『悪茄子(わるなすび)』といいます。花の形や黄色い



おしべは、食用野菜のナスによく似ています。ではなぜ“ワルナスビ”なのか。それは、種からも地下茎からも繁殖するので、一度根付くと爆発的に繁殖します。更に毒をもつので食べることはできません。そして、葉や茎にトゲをもつのです。これらことから『ワルナスビ』と名付けられたのでしょう。ワルナスビのトゲに3年の精鋭たちは「いてー」と苦戦していたのです。こ



の日は、これまた、CS委員会・学校支援本部のご協力のもと、地域のボランティアを募っていただき『花のまなび舎プロジェクト～みんなで咲かせるひまわり』を開催していました。道路沿いの草をむしり、ひまわりの種を植える企画であったのです。前述のとおり、校庭の隅・道路際には、ワルナスビが繁殖。苦戦を強いられましたが、アクリルゴム付きの軍手を持参し、手をトゲからガードしながら彼らは抜き切りまし



た。草を抜いた後、耕し、ひまわりの種を植えていきました。1ヶ月強で花が咲き始めます。黄色い花が美しく校庭を縁取ることでしょう。美しさは、自分らで求め、苦勞しながら創っていくのですね。

『我れ 成す 美』 なのです。